

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ビバモール宮	階数	地上3階
建設地	愛知県一宮市羽衣2丁目5番1、5番2	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	物販店,飲食店,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年1月 予定	評価の実施日	2021年2月7日
敷地面積	48,171 m ²	作成者	岡田 篤
建築面積	24,501 m ²	確認日	2021年2月7日
延床面積	48,637 m ²	確認者	岡田 篤



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆ 100%超: ★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	76%
③上記+②以外の	76%
④上記+	76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>5.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	5.7 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	5.7 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	全体
Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境													
1 音環境													
1.1 室内騒音レベル													
1.2 遮音													
1 開口部遮音性能													
2 界壁遮音性能													
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													
1.3 吸音													
2 温熱環境													
2.1 室温制御													
1 室温													
2 外皮性能													
3 ゾーン別制御性													
2.2 湿度制御													
2.3 空調方式													
3 光・視環境													
3.1 昼光利用													
1 昼光率													
2 方位別開口													
3 昼光利用設備													
3.2 グレア対策													
1 昼光制御													
3.3 照度													
3.4 照明制御													
4 空気質環境													
4.1 発生源対策													
1 化学汚染物質													
4.2 換気													
1 換気量													
2 自然換気性能													
3 取り入れ外気への配慮													
4.3 運用管理													
1 CO ₂ の監視													
2 喫煙の制御													
Q2 サービス性能													
1 機能性													
1.1 機能性・使いやすさ													
1 広さ・収納性													
2 高度情報通信設備対応													
3 バリアフリー計画													
1.2 心理性・快適性													
1 広さ感・景観 (天井高)													
2 リフレッシュスペース													
3 内装計画													
1.3 維持管理													
1 維持管理に配慮した設計													
2 維持管理用機能の確保													
2 耐用性・信頼性													
2.1 耐震・免震・制震・制振													
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													
2 免震・制震・制振性能													
2.2 部品・部材の耐用年数													
1 躯体材料の耐用年数													
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													
6 主要設備機器の更新必要間隔													
2.4 信頼性													
1 空調・換気設備													
2 給排水・衛生設備													
3 電気設備													
4 機械・配管支持方法													
5 通信・情報設備													

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.32	-	-	-	2.2
1	生物環境の保全と創出	独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	2.8
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=1.14	3.0	1.0	0.28	-	-	-	1.0
2	自然エネルギー利用		3.0	3.0	0.18	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.72	3.0	4.3	0.33	-	-	-	4.3
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.1	0.63	-	-	-	3.1
2.1	材料使用量の削減		-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.33	-	-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.33	-	-	-	
3	悪臭		-	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:5.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ビバモール一宮

計画上の配慮事項	
総合	名古屋鉄道 名鉄一宮駅から徒歩18分の商業地域に、物販店・飲食店・サービス店舗・保育所等の複合用途の計画をした。
Q1 室内環境	ゆったりとした空間の創出に配慮します。また、壁・天井の仕上げ材等に関してもF☆☆☆☆の材料を使用し、有害物質の発散を小さく抑える様に配慮した。
Q2 サービス性能	天井高さを3.5m以上を確保し、広さ感、開放感のある空間を創出した。
Q3 室外環境(敷地内)	計画敷地内には出来るだけの植栽を計画し、周囲の環境に配慮した計画をした。
LR1 エネルギー	照明機器はLED機器を採用し、空調機器に関してはCOPの高い機器を採用しました。
LR2 資源・マテリアル	躯体+軽鉄+仕上材のデテールを採用。
LR3 敷地外環境	空調機器はノンフロン冷媒を採用し、排熱に関しても直接道路に排出しない様に配慮しました。
その他	特にありません。